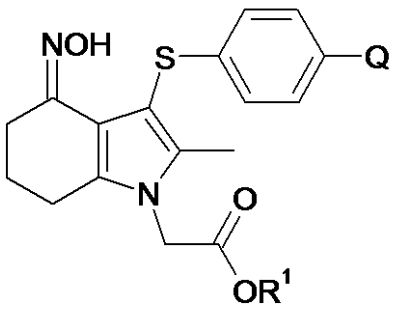
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成25年7月4日(2013.7.4)

【公表番号】特表2012-532186(P2012-532186A)
【公表日】平成24年12月13日(2012.12.13)
【年通号数】公開・登録公報2012-053
【出願番号】特願2012-519061(P2012-519061)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｄ 209/08 (2006.01)
Ｃ０７Ｄ 209/30 (2006.01)
Ｃ０７Ｂ 61/00 (2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/405 (2006.01)
Ａ６１Ｐ 11/00 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｄ 209/08 ＣＳＰ
Ｃ０７Ｄ 209/30
Ｃ０７Ｂ 61/00 ３００
Ａ６１Ｋ 31/405
Ａ６１Ｐ 11/00

【手続補正書】
【提出日】平成25年5月16日(2013.5.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
一つの態様において、式(IIｃ)：
【化１】



(IIc)

〔式中、Ｒ^{1}は水素、場合により置換されていてよいヒドロカルビルおよび場合により置換されていてよいヘテロシクリルから選択される。〕
である式(II)の化合物；またはその塩が提供される。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９３
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００９３】

アセチル化剤は当業者に周知である。式(IIｃ)および(IIｄ)の化合物が関与するアセチル化工程に使用し得るアセチル化剤は、酢酸無水物、アセチルハライド類、例えばアセチルクロライドおよびチオエステル類、例えばチオ酢酸フェニルを含む。チオ酢酸フェニルは、同等な条件下で、酢酸無水物単独よりも良好な変換をもたらすことが判明した。あるいは本方法で、アシル化剤、例えば安息香酸無水物またはピバル酸無水物を使用し得る。かかる反応の生成物中のアミド基を、加水分解し、得られたアミンを、アセチル化剤を使用してアセチル化する必要がある。